



西小学校6年生への出張授業（上）と東中学校1・2年生への出張授業

「ふるさとの歌」誕生
秦野市最大の音楽祭「丹沢音楽祭」の幕開けと共に、1984年に誕生した丹沢讃歌。丹沢を愛好者らの情熱により誕生・献呈され、秦野市文化会館（現・クアーズテック秦野カルチャーホール）でのオープニング

グセレモニーで発表された。作詞は市内在住の児童文学学者森一歩氏、作曲は秦野市出身・在住で東京室内管弦楽団指揮者等と共に、1984年に誕生した丹沢讃歌。丹沢を愛好者らの情熱により誕生・献呈され、秦野市文化会館（現・クアーズテック秦野カルチャーホール）でのオープニング

「春は浅く山里けむり雪とけて大地は明ける——」。丹沢の山開きや丹沢音楽祭で市民・岳人に歌い継がれている「丹沢讃歌」。ふるさと秦野の自然ど人々を称えるこの歌を「全ての市民に歌えるようになつてほしい」と今年度、クアーズテック秦野カルチャーホールは西小学校6年生と東中学校1・2年生に出張授業を行った。授業での取り組みとともに、秦野市の財産である丹沢讃歌について紹介する。

「丹沢讃歌」の出張授業

歌い継ぐ“市民の心”

自然、その水、土、緑、風など丹沢の四季を讃え、そこで生きる人々を表現した楽曲『丹沢讃歌』を通して、丹沢の自然を愛する心を、ついでいきたいと願っています」と綴られている。時代や町名が変わつても、そこにあり続ける

丹沢。その雄大な姿は、秦野市民共通の原風景といつても過言ではない。秦野市ゆかりの楽曲は数多くあれど、誕生の経緯や題材を踏まえ丹沢讃歌ほど「ふるさとの歌」にふさわしい樂曲は他にならないと言える。

秦野市を代表する郷土の歌である丹沢讃歌だが、「歌える」市民は一部に限られているのが現状だ。せっかくある素晴らしい歌を、生かさない手はない。秦野市の文化拠点であるクアーズ

合唱連盟と協働開催

出張授業は、同館と秦野市合唱連盟（加藤雅彦理事長）との協働開催となりた。同連盟の有志のメンバーや約60人が協力して、模範合唱など指導にあたる。指揮を務めたのは玉置清明氏。秦野市内の高等学校で音楽教諭を務め、これまでも合唱部の顧問や市内外のコーラス団体の指導に尽力。丹沢の山開き式では丹沢讃歌の指揮者を務める。秦野市出身のピアニスト渡邊純子氏。07年から国内唯一のプロ合唱團である東京混声合唱団のピアニストを務め、全国各地での一般公演・文化行政の学校公演などで活躍する。丹沢讃歌を広めるべく、秦野の音楽シーンを担う人材が駆け付けた。

初の実施は西小学校の1・2年生約180人を対象に授業を実施。生徒らは前もって練習で度出張授業の実施が実現した。進してきた経緯がある。「ふるさと秦野」への両者の思いが合致し、今年度出張授業の実施が実現した。

丹沢音楽祭は、丹沢音楽祭と丹沢の山開き式で必ず歌います。まさに「みんなで歌える日を楽しんで」と出張授業を締めくくった。



秦野戸川公園「風の吊り橋」付近に建てられた歌碑

**はだの浮世絵ギャラリー 新展示
「百花繚乱—花の浮世絵展—」**

江戸には桜や梅、藤、菊の名所があり、行楽地として栄えました。また、多くの愛好家たちによって朝顔や花菖蒲、菊などの品種改良が進み、庶民も鉢植えを楽しむことができました。江戸の人々も愛でた植物や花の浮世絵43点を展示します。展示期間は2025年5月6日㈭まで。3月28日金、4月25日金、月曜日(祝日の場合は翌平日)は休室。

はだの浮世絵ギャラリーとは

1998年に東田原出身の浮世絵収集家・大津圓子氏(1906年~2000年)より秦野市が寄贈を受け、所蔵する中から、定期的に作品を入れ替え展示し、紹介しています。

みんなで楽しむ音楽の時間 ~津軽三味線編~

コンサート&体験による
みんなで楽しむ音楽の時間

日時
2025年4月6日(日)
14:00開演(13:30開場)
※15:20終了予定・休憩なし

会場
タウンニュースホール
参加費
●一般(中学生以上) ¥2,000
→お子様(3歳~小学生) 1名同伴可
→お子様(3歳~小学生) 1名追加はプラス¥500

小山清雄 伊藤ケイスケ 鏡味千代 三遊亭吉馬 木戸鏡(入場料):大人100円・高校生以下50円

Tea Time Concert vol.18

~音楽の川クルーズへ、ようこそ!~

2025年5月25日(日) 13時半開場・14時開演・15時半終演(予定)

観覧料 2,500円
※出張コンサートはデザートセットは付きません

会場 タウンニュースホール
出演 田中詩乃(ソプラノ)、横田萌子(ピアノ)

田中詩乃 横田萌子

「丹沢讃歌」音源
はこちら

三代目歌川豊国・歌川広重・当盛十花撰子



はだの彫刻探訪 Vol.8

秦野市が「彫刻のまち」なのを知っていますか?駅周辺や公園など、実は景観に調和し、さりげなく身近にアートが存在しています。NITTANパークおおねにも様々な彫刻が存在していますが、作品名や制作者はご存じでしょうか?「はだの文化通信ハルモニア」内で少しづつ紹介していきます。散策ついでに、見つけてみてくださいね。

MANAZASHI(まなざし)
作・大隅秀雄